

## 第7章 4 核構想の実現に向けて

4 核構想は、今後の人口減少や超高齢化社会を目前にひかえて、長期的展望に立ったものである。

第6章で示した実践的なプログラムと将来的な目標を、地域住民が街の変化を実感しながら、構想を着実に進めていくには、社会実験によるプロセスが有効である。

ここではその社会実験の提案と、今後の街づくりの展望を整理する。

1. 実践プログラムを推進するための社会実験
2. 今後の街づくりへの展望

## 1. 実践プログラムを推進するための社会実験

ここでは4核構想の実践プログラムの有効性を、市民と共に体感しながら推進していくための社会実験について提案する。

今後縮退していく社会の状況で、限られた投資を出来る限り有益、かつ、効率よく運用していくためには、官民協働による社会実験をとおして、その効果を確認しながら進めていくプロセスが大切である。

### 1) 平成23年度実施予定の社会実験

#### (1) 社会実験の内容

平成23年度は以下の2つのプロジェクトを連動して実施する。

##### ① "わいわいコンテナ" プロジェクト

###### ■ 目的

移動及び再利用可能なコンテナを使って、街なかに人を集めるプログラムを実施、検証し、街なかの賑わいに寄与するプログラムについては、本設としての導入に向けて検討を進めるものとする。

###### ■ 内容

###### ・SAGAMAGA(Book&Cafe)による街なかの「憩いの場」づくり

コンテナの中で展開するプログラムは世代を問わず興味を惹く「世界の雑誌」や「マンガ」など、常に新着が豊富なモノとし、カフェを併設することで、気軽に立ち寄れる憩いの場とする。

###### ・駐輪場の整備によるアクセス性の向上

「憩いの場」に併設して駐輪場を設置することで、車に頼らず気軽にこの場所に訪れ、街を歩けるようにする。

###### ・フレキシブルに使える広場

ランチや散歩といった、日常的に利用できる開放的な広場を用意することで、人の賑わいが街の中に表れるようにする。



"わいわいコンテナ" プロジェクトの実施イメージ

## ② "ぶらっとプロムナード" プロジェクト

### ■ 目的

"わいわいコンテナ" プロジェクトと連動し、沿道の店舗の協力のもと道路を歩行者に開放して、人々の街なかへの回遊性や沿道の店舗の集客効果について検証する。

### ■ 内容

#### ・週末または時間を限定した歩行者のためのプロムナード

沿道の店舗の物品搬入等に考慮し、週末や朝以外の時間帯など、時間を限定した上で、通りを歩行者のためのプロムナードとし、エスプラッツとコンテナプロジェクトを結ぶ歩行者の流れをつくる。

#### ・オープンテーブル設けることによる、賑わいの演出

沿道の店舗に協力を求め、通りが歩行者のためのプロムナードとなる時間帯には通り沿いにテーブルを出してもらうなど、店舗内の賑わいを通りの空間まで広げる。

#### ・ランチフェスティバル

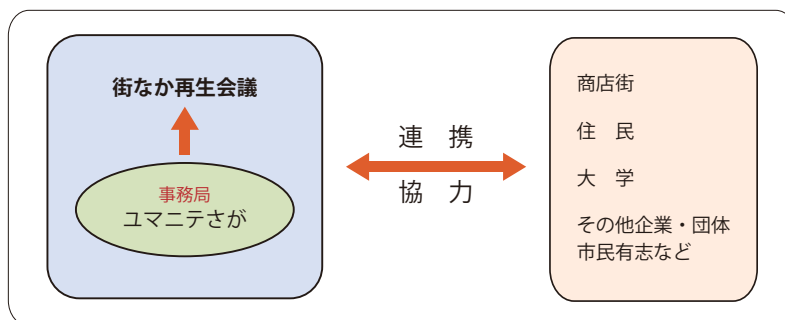
沿道の店舗の協力のもと、ランチの営業やお弁当の販売を期間限定で行ってもらい、昼間の来街者を増やす。



"ぶらっとプロムナード" プロジェクトの実施イメージ

## (2) 運営方法

街なか再生会議が主体となって運営し、NPO法人ユマニテさがを事務局とし、地域の商店街や住民、佐賀大学にも積極的な協働を期待する。



運営組織図 (案)

### (3) 社会実験候補地

旧親和銀行跡地と中央本町商店街の2ヶ所を連動して社会実験を実施する。

街なかの「憩いの場づくり」と歩行者優先の動線整備を一体的に行うことによって生まれる賑わいや、人の流れの変化等を検証する。



社会実験候補地

敷地周辺の現況写真

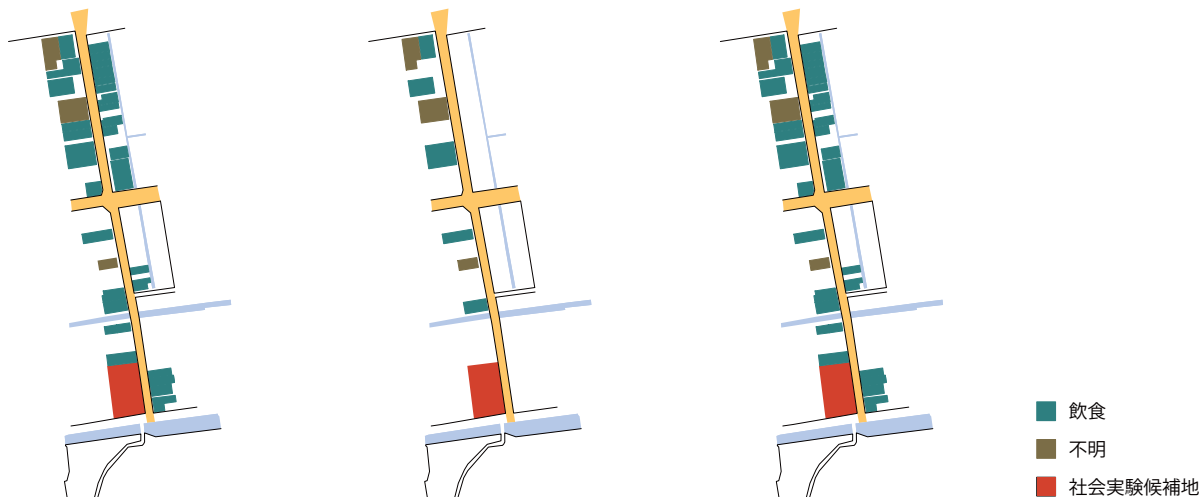
#### ・沿道の現況

社会実験の実施によって、現在、昼間よりも夜間に営業している飲食店が多く、昼間の賑わいが感じられない沿道に、新たな人の流れを誘導する。

■ 飲食店の営業状況

■ 昼間営業の飲食店

■ 夜間営業の飲食店



## 2) 平成23年度以降に実施が望まれる社会実験(案)

以下に提案する社会実験は、4核構想実現に向けて、今後実施が望まれるプロジェクトである。  
理想としては、前述した平成23年度実施予定の社会実験と連携して実施されることが望ましいものであり、可能な限り、早期に体制を整え、実施して、社会実験相互の相乗効果を検証することが求められる。

### (1) 社会実験の内容(案)

#### "くりっくdeクリーク" プロジェクト **CLICK! de Creek !!** <sup>くりっく!deクリーク!!</sup> (案)

##### ■ 目的

佐賀の街なかを縦横無尽に流れるクリークは、佐賀特有の財産である。しかし、現状は、川沿いの建物はクリークに裏を向け、都市のバックヤードのような雰囲気となっている。

本プロジェクトは、街の財産であるクリークに、市民の意識を向け、今後の環境向上と、クリークと共に暮らす街の風景形成の契機とするものである。

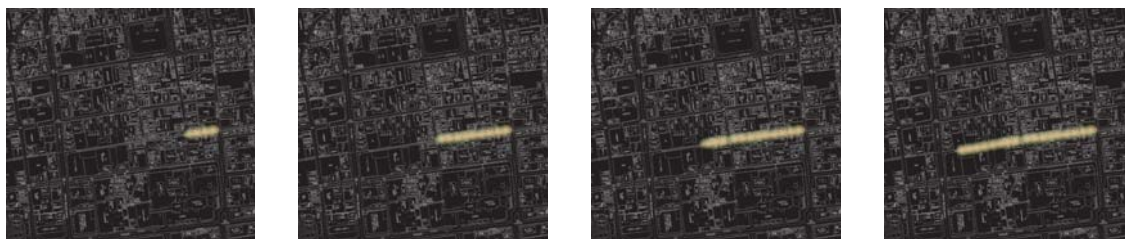
##### ■ 内容(案)

他の都市ではあまり見ることがない佐賀の街の特徴でありながら、建物の裏側になってしまっているクリークを、市民との協働プロジェクトによってライトアップする。

ライトアップの照明は、web サイトや twitter などを通じて、市民をはじめ全国から『**くりっく!deクリーク!! サポーター**』を募り、サポーターが増えることに東側から光の帯が伸びていくような仕組みを考える。

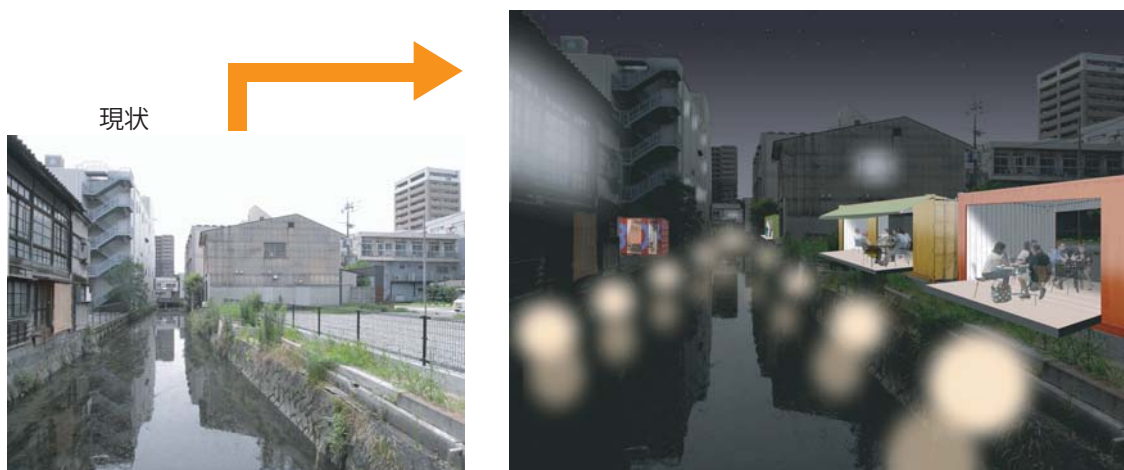
サポーターが集まり、クリークが顕在化し、美しい空間となることで、集客を図る。

##### ■ 社会実験のイメージ



プロジェクトの始まり

クリークの顕在化



現状

## 2. 今後の街づくりへの展望

人口減少と超高齢化社会の到来により、中心市街地は急速に空洞化を続けている。

人口減少社会において、街の賑わい回復、魅力向上等、未来を見据えた「持続可能な街づくり」を推進するためには、行政と民間、地域住民が互いに知恵を出し合い、具体的な実践プログラムをつくり、地域ぐるみで実効性のある実施体制を整備していくことが従来にも増して重要である。

また、街づくりに関する事業の安定化や地域全体の魅力向上・活性化、新規事業への展開等を実現するためには、一定の地域において街の管理運営に総合的に取り組み、拠点の活性効果を周辺へと連鎖的に波及させていくことがポイントである。

本計画では、賑わいの拠点となる4つの核（拠点施設）と、その核に囲まれたエリア（4核構想エリア）を中心に、既存のストックを活用しながら都市機能の集約化を図ることによって来街者を増やし、駐車場や空き地の戦略的配置による緑地公園化や、クリークを活かした景観づくりによる街の魅力向上を図りながら、人々が歩きたくなる、住みたくなる、『**Central Park さがー賑わいあふれる街**』を実現するための実践プログラムを示した。

プログラムを推進するための社会実験（"わいわいコンテナ"プロジェクト）や、市民協働で行うクリーク再生の試み『**Click de Creek!!**』プロジェクトは、人と人との交流やつながりを再生する仕掛けづくりであり、全国の街づくりのモデルとなる先導的な試みを集中的、効果的に行うことにより、その効果をさらに周辺地域へと波及させていくことを狙った取り組みである。

### 「街づくり」は「人づくり」

都市機能の集約や中心市街地における商業集積の強化だけでなく、みどりの基本計画などの市民に身近なみどりや景観に関する計画の推進と合わせ、行政と市民、地域住民の連携による地域の特性を活かした、身近な、かつ、個性豊かな街づくりを展開することで、「誇るべき佐賀」の再生が実現するものとする。

「街づくり」を通して、より強い人のつながりが再生されることで、地域住民の暮らしぶりそのものが魅力となるような街の姿こそが理想的である。